

宇宙叙事詩



宇宙叙事詩〔上〕・〔下〕

文・光瀬 龍

画・萩尾望都

早川書房

(11/7刊・各¥1,000)

コミック版『百億の昼と千億の夜』で、一躍有名になったコンビの（と、あえて断わるまでもないだろうが）絵物語集である。『S Fマガジン』に二年間連載された内容が、そのまま二冊の本に、奇麗にまとまっている。

ショート・ショート風の小品が並んだ上巻は、光瀬お得意の用語の数々——東キヤナル市、宇宙船乗りたち、そして楼蘭の城邑——に彩られている。下巻には、十回に及ぶ、アヨドーヤという古代の架空王国の物語が綴られている。ここには、確かにあの光瀬の世界がある。一方、淡い二色刷りの絵には、萩尾の画風が十二分に発揮されている。水彩画風で、どうしても薄い印象しかない多色刷りの絵よりも、かえって特質が生かされたように思える。——しかし、デビュー以来変わりのない光瀬節と、いまや大家である萩尾のいつもの絵が交わったこの本からは、いまひとつ散漫な感想しか湧いてこない。たとえば『百億……』が、なぜ新鮮な衝撃を持ちえたのか。それは、光瀬の原作に新しい光を投げかける、コミックとしての解釈があったからだろう。本書からは、それ以上の可能性が芽生えても不思議はないと思うのだが。